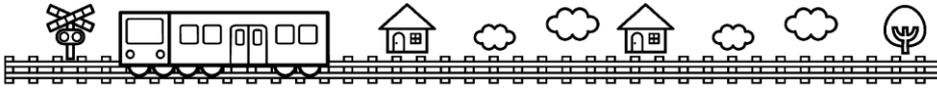


7月

尾久二だより

令和2年6月30日
荒川区立尾久第二幼稚園
園長 高橋 美香



子どもと遊び with コロナ

園長 高橋 美香

梅雨に入り、雨の日が多くなりました。子供たちもお気に入りの傘やカッパを着て、嬉しそうに園に駆け込んできます。そして「ママ、マスク～」と後からやって来るお母さんにマスクを着けてもらっています。登園してすぐの石鹸手洗いも上手になりました。お昼は、室内で広がって、みんな同じ方向を向いてのお弁当です。でもどうしてもお話が弾んでしまいます。「これ、あたし大好きなの。」「僕なんて、フルーツが入ってるんだよ。」「これ美味しいんだよ。」「ママが作ってくれたの。」・・・



こんなご時世だからでしょうか。お医者さんごっこも人気です。「園長先生のお熱を測りますね。」と体温計を体に近づけ、「うわー高いですね。」「じゃ注射します。泣いてもダメですよ。」「はい、もう大丈夫。次はお腹を診ますね」と聴診器をあて、「あ、ダメですね。バイキンがいっぱいです。」「もう一回注射します。」「えー！注射はもう嫌だよ。お薬ください。」と言うと「お薬はありません。我慢するんですよ。」と2回も注射されてしまいました・・・

一体どうやって、こんなに言葉を覚えたのでしょうか。

先日、いるか（年長）組が、りす（年中）組をお客さんにイルカショーをやっていました。「イルカクイズ」やイルカのぬいぐるみをお客さんに触ってもらう「タッチタイム」。そして「イルカのジャンプです！」と吊るしたフラフープめがけてイルカのぬいぐるみを投げ込み、フラフープに入った時は拍手喝采！素敵なショーでした。

休園中の3か月ですっかり頼もしくなった子供たちの成長に日々驚きつつ、「園長先生、一緒に遊ぼう！」の声に誘われて、今日も保育室へ向かいます。今日もみんな元気に楽しく過ごせますように。



7月の保育のねらい



うさぎ組

- 着替えや身の回りの始末など、自分でできることをしようとする。
- 好きな遊びを楽しむ中で、友達との関わりを喜ぶ。
- 身近な夏の自然に親しむ。



りす組

- 梅雨期から夏にかけての生活の仕方を知り、健康に過ごす。
- 自分の思いを友達や教師に伝え、関わり合う喜びを味わう。
- 身近な自然や栽培物、夏野菜に関心をもって見たり世話をしたりする。



いるか組

- 夏の生活の仕方が分かり、健康に気を付けて過ごそうとする。
- 夏の自然事象や植物の生長や変化に興味をもって関わり、関心を深める。
- 友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びや活動を進める。